



くパフォーマンスではなく、地道な一歩が必要だと指摘して、こう述べています。

「その目的地に達するには、目の前の一歩に集中することが必要で、足取りが重くならないよう無駄な荷を下ろし、必要なものだけをもち、疲れ、恐れ、不安、暗闇が、歩み始めた道の妨げにならないよう、日々頑張らなければなりません」

心に主との出会いへの希望を抱くことで、わたしたちは、日々の小さな苦勞が決して無駄にならないことを知っています。わたしたちは毎日、「平和と正義と愛を生きる新たな世界に」向かって、毎日巡礼者として一歩を刻んでいきます。

シノドス的であろうとしている教会は、巡礼者としてともに歩む教会であろうとしています。わたしたちは巡礼者です。ともに支え合い、互いに耳を傾けあい、ともに歩む教会は、毎日小さな一歩を社会の中に刻んでいきます。その小さな一歩の積み重ねこそが、暗闇の支配する社会に希望を生み出し、神の計画の実現へとつながっていきます。わたしたちは巡礼者です。福音をともに証ししながら、確実に一歩ずつ前進を続ける希望の巡礼者です。